

正法寺を訪ねて



4年振り「歴史を訪ねて」

11月19日の文化財
の一斉公開の日に
合わせ、正法
寺へ。まるごと

館での八幡の歴史講座の出口修さんをはじめ総勢21人になりました。松花堂広場に集まって正法寺へ向かう方や現地に直接来られた方も。歩いている途中で左手に八角堂の屋根が見えました。これは石清水八幡宮の今のエジソン碑の近くにあったものが明

八角堂

治の廃仏毀釈によって他の場所に。八角堂内に安置されていた阿弥陀如来坐像（重要文化財）は現在正法寺の法雲殿に安置され、八角堂の建物が平成26年に修理が始まり、31年末に綺麗に修復されました。

唐門



泥松稲荷社

八幡まるごと館だより

2024年2月28日/171号
＜発行＞八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664 (9時~17時)
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午

正法寺に到着

正面に唐門が見えます。事前に正法寺住職さんに案内をお願いしていました。その時に、公開の日には寺内の戸を開けるだけで1時間以上かか



本堂を臨んで

正法寺とは

正法寺は1191年(鎌倉建久2年)に、鎌倉幕府御家人・高田蔵人忠国(たかくろうとただくに)により、天台宗の寺として開けられました(室町時代に浄土宗に改宗)。忠国の次男・高田願阿円誓(がんあえんせい)が第1世(初代住職)となり、姓を「清水」の地名にちなんで「高田」から「志水」と改め、本寺は志水家の菩提寺となりました。(正法寺のホーム

るので手伝いに来て欲しいくらいだと言われました。それくらい広いです。

す。40年も暮らしてきたのに。今回は話されませんが、このお寺の娘お亀さん(1573~1642)

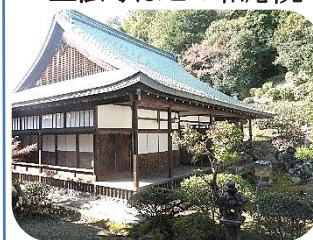


が子どもをたらいにに入れて行水させている所を当時伏見城にいた徳川家康の行列が通った。お亀さんは失礼になると思い、たらigoと持ち上げた。それを見た家康がお亀さんを気に入り、側室にしたということです。産んだ子が徳川喜直で尾張徳川家の初代藩主になります。全国区の徳川家康がこんな八幡をうろうろしていたというだけで驚きでしたね。前回はたらigoも置いてありました。諸説あるらしいですが。何も知らないで長いこと八幡に住んでいたんです。

そう思って出口修さんから八幡の歴史を学んでいます。まだまだ知らないことが山のようにあります。知らないで暮らすのはもったいないくらいです。

家康亡き後お亀さんは相応院に

正法寺はこの相応院の菩提寺となり



正法寺は尾張藩の厚い庇護を受け続け、今も残る本堂や唐門や大方丈が建立され

小方丈・書院・鐘楼・庫裏を合わせた「七堂伽藍(しちどうがらん)」からなっています。正法寺はお亀さんの存在を抜きにしては語れませんね。

現在の住職さんは第38世だそうです。前回お聞きしました。

正法寺の庭園



以前も訪ねて

2016年4月に初めて正法寺を訪れた時は八幡市内にこんなお寺があるなんて知らなかったで



に。雲に見立てられているつつじがきれいに刈り取られて季節によって花がさく。その雲の上に阿弥陀三尊像が配置され、後



庭園から書院を



本堂には

1629 年相応院から寄進された本堂や唐門、大方丈が建立。

本堂の本尊は阿弥陀如来坐像



書院から庭園を

大方丈前の庭園は作庭家の重森三玲の弟子の吉田清史の作と言われ、「阿弥陀来迎」がテーマ

ろには金木犀があります。又書院側にも庭園があります。これは京都府指定の名勝になっていて山裾をそのまま利用、新緑、紅葉が見事に映えると言われますが、今年は暑さのせいではありませんでした。

で、従えた2つの菩薩を両横に、鎌倉時代の作だと言っています。中の壁面や天井は 400 年以上も前に作



はないかと言われている。この状態を保つために住職さんを始め関係者の皆様の御苦労



が思われます。今度は本堂前の階段を下りて次に向かうのは。

法雲殿です

本来八角堂の中に安置されていた4, 8 m もの阿弥陀如来座像がこの法雲殿の中に。仏像自体は 2.8m で周りに 13 体の仏様が。檜で作られ漆のうえに金箔が施されていて鎌倉時代初期の作だそうですから、かなり金箔がとれてきています。



阿弥陀如来坐像(ネットより)

八角堂の中にあった石清水八幡宮から明治の廃仏毀釈でその時の正法寺の住職の志水円阿が譲り受けたそうですが、建物は西車塚古墳に移設。阿弥陀如来像は京都国立博物館へ、そして 2008 年正法

られたものとは思えない程色彩が残されていました。大方丈の襖絵は狩野派の絵師によるもので

寺の法雲殿に。本当は本来の居場所である八角堂の中にあるのが望ましいですが。住職さんから 1 時間半近く説明をうけました。今度寄せていた



法雲殿の外へ

ページを参考にさせていただきます。

帰路に

ここで帰られる方々とは別れて松花堂に向かいまし



た。まると館で出口修さんに八幡の歴史の講義をして

く時には課題を持って来ようと思いましたが。正法寺のホーム



のお話を聞いて神と仏、寺と神社は何が違うんだろうと。今でさえ明確なものはありません。八幡にはか



られたものや行動に多く学ぶ所があると思えるようになりました。今を生きるヒントがあるのではと。長いこと生きていますが、多くの方々に教えていただいて、やっとたどり着いた地点です。本当に恥ずかしい限りですが、ま

松花堂で



お弁当を

